

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第2区分
 【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2001-515859(P2001-515859A)

【公表日】平成13年9月25日(2001.9.25)

【出願番号】特願2000-510435(P2000-510435)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)
 A 6 1 K 31/197 (2006.01)
 A 6 1 K 31/22 (2006.01)
 A 6 1 P 29/02 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00
 A 6 1 K 31/197
 A 6 1 K 31/22
 A 6 1 P 29/02

【手続補正書】

【提出日】平成17年8月18日(2005.8.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

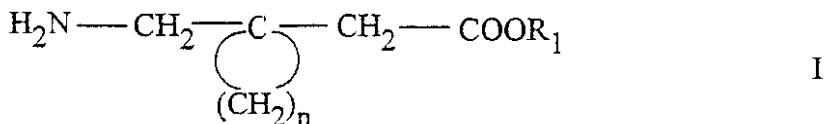
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】少なくとも1種の疼痛軽減特性を有する抗癲癇化合物の有効量ならびにNMDA受容体拮抗剤、NSAIDおよび鎮痛剤よりなる群から選択される少なくとも1種の化合物の有効量の組み合わせ物。

【請求項2】抗癲癇化合物が、下記式I:

【化1】

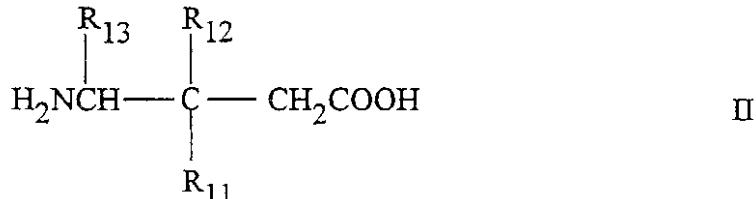


[式中R₁は水素または低級アルキルであり、nは4~6の整数であり、そして環は場合により置換されている]の化合物および製薬上許容しうるその塩である請求項1記載の組み合わせ物。

【請求項3】抗癲癇化合物がガバペンチンである請求項1記載の組み合わせ物。

【請求項4】抗癲癇化合物が下記式II:

【化2】



[式中R₁₁は炭素原子1~6個の直鎖または分枝鎖のアルキル、フェニルまたは炭素原子3~6個のシクロアルキルであり；R₁₂は水素またはメチルであり；そして、R₁₃は水素、メチルまたはカルボキシルである]の化合物、またはその個々のジアステレオマーもし

くはエナンチオマー異性体または製薬上許容しうるその塩である請求項 1 記載の組み合わせ物。

【請求項 5】 抗癲癇化合物がプレガバリンである請求項 1 記載の組み合わせ物。

【請求項 6】 少なくとも 1 種の疼痛軽減特性を有する抗癲癇化合物の有効量および NMDA 受容体拮抗剤の有効量の組み合わせ物。

【請求項 7】 抗癲癇化合物がガバペンチンである請求項 6 記載の組み合わせ物。

【請求項 8】 抗癲癇化合物がプレガバリンである請求項 6 記載の組み合わせ物。

【請求項 9】 少なくとも 1 種の疼痛軽減特性を有する抗癲癇化合物の有効量および NSAID の有効量の組み合わせ物。

【請求項 10】 抗癲癇化合物がガバペンチンである請求項 9 記載の組み合わせ物。

【請求項 11】 抗癲癇化合物がプレガバリンである請求項 9 記載の組み合わせ物。

【請求項 12】 抗癲癇化合物がガバペンチンであり、NSAID がナプロキセンである請求項 9 記載の組み合わせ物。

【請求項 13】 少なくとも 1 種の疼痛軽減特性を有する抗癲癇化合物の有効量および麻薬性鎮痛剤の有効量の組み合わせ物、ただしモルヒネを麻薬性鎮痛剤として含まない組み合わせ物。

【請求項 14】 抗癲癇化合物がガバペンチンである請求項 13 記載の組み合わせ物

。

【請求項 15】 抗癲癇化合物がプレガバリンである請求項 13 記載の組み合わせ物

。